様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2013～2017
課題番号：２５２４３０１０

研究課題名（和文）トラウマとジェンダーの相互作用：精神病理・逸脱・創造性

研究課題名（英文）Interaction of trauma and gender: psychopathology, deviation and creativity

研究代表者
宮地　尚子（Miyaji, Naoko）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：６０２６１０５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　29,700,000円

研究成果の概要（和文）：トラウマとジェンダーの相互作用を、(1)精神病理的側面から、(2)犯罪行為や逸脱現象の側面から、(3)文化創造的な側面から探り、明らかにした。
(1)では海外研究協力者との共同研究や、臨床家、脳科学やジェンダー学等の専門家らによる共同研究会議を実施、トラウマの臨床的課題について検討した。(2)では刑事司法におけるストーカーや性犯罪事件の取り扱い、女性薬物依存症者のトラウマと社会復帰、性労働従事者への暴力について分析した。(3)では参加型アートプロジェクトの実施、参与観察を行い、トラウマからの創造性について考察した。(1)～(3)を統合し、成果を著作やウェブサイト等の形にまとめ、国内外で発表した。

研究成果の概要（英文）：Interaction of trauma and gender was analyzed from three dimensions; 1) psychopathology, 2)crimes and deviation, and 3)cultural creativity.
On the first dimension, clinical agendas of trauma treatment were examined by conducting international research and cross-disciplinary conferences with clinicians, brain scientists and gender specialists. On the second dimension, how sexual crimes including stalking were handled in the Japanese criminal justice system was analyzed. Trauma experiences and recovery processes of women with drug addiction and the violence against sex workers were also examined. On the third dimension, creative aspects of trauma were explored through various art projects using the method of participant observation. As an integration of these three dimensions, outcomes were presented in the domestic and international conferences and published as books and articles, and on the internet.

研究分野：総合人文社会

キーワード：トラウマ　ジェンダー　性暴力　PTSD　逸脱

１．研究開始当初の背景

性暴力やドメスティック・バイオレンス（以下ＤＶ）など、ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力は、「女性に対する暴力」として 1970 年代頃から国連レベルでも問題化され、実態調査や被害者支援などの施策が講じられるようになってきた。日本でも 2001 年よりＤＶ防止法が施行されるなど取り組みが進みつつある。

これらの暴力がもたらすトラウマは、被害者の心身に様々な症状をもたらすのみならず、対処行動や生活様式をも変化させ、被害者のその後のジェンダーやセクシュアリティにも影響を与えることが諸外国の研究から明らかになっている。とくに成長過程の早期からの暴力や、親密な関係の中で長期間続く暴力による影響は著しく、また社会全体がそういった暴力に寛容な場合は、二次的・三次的影響も大きい。

しかし、日本の精神医学においてトラウマ研究は浅く、ジェンダーの視点も非常に乏しかった。一方、ジェンダー研究においても暴力への注目はあるが、ジェンダー理論へのトラウマの本格的組み入れはなされていなかったため、トラウマとジェンダーの相互作用に関する総合的な研究が必要であった。

２．研究の目的

1.の背景をふまえ、研究代表者らは、2001 年よりトラウマとジェンダーに焦点をあてた研究を開始した。当初は、社会や文化的文脈を重視しつつも、ＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）などの「外傷性精神障害」を中心に、臨床現場で起きていることの精緻な観察と、その言語化に重点をおき、論文集の出版など、着実な成果を上げてきた。2009 年度からは、その流れを踏襲しつつも、疾患や症状といった精神病理的な現象だけではなく、犯罪や逸脱、当事者の自助グループやメディア発信・アート表象など創造性に関わる現象に視野を広げて、研究を行ってきた。

また、上記のような着眼により、有機的な研究ネットワークが広がり、多くの研究成果が見られたため、引き続き同様の枠組みで、規模を拡大して、トラウマとジェンダーの相互作用を深く分析する必要があった。他方、2011 年の東日本大震災は多くのトラウマをもたらしたが、復興プロセスにおけるジェンダーの視点は十分でなく、ＤＶや性暴力の潜在化なども丁寧に検討することが、喫緊の課題であると考えられた。

こうした経緯をふまえ、以下の３点を研究目的として設定し、研究を実施した。

(1) トラウマとジェンダーの相互作用を、精神病理的側面から明らかにする。とくに、トラウマ起因の精神疾患としてはＰＴＳＤが著名だが、本研究では、長期のトラウマの影響を包括する「複雑性ＰＴＳＤ」や「発達性トラウマ障害」に焦点をあて、中でも鍵となるアタッチメント（愛着）の問題と解離症状に着目しながら、トラウマとジェンダーの複雑で長期的な相互作用を明らかにする。

(2) トラウマとジェンダーの相互作用を、犯罪行為や逸脱現象から明らかにする。(1)で示したトラウマの長期的な影響やジェンダーとの相互作用は、精神病理としてだけでなく、非行・犯罪、逸脱行為として社会問題視されたり、対人関係トラブルや親密圏の暴力として潜在化したりしやすい。それらの現象と、トラウマとジェンダーの相互作用について明らかにする。

(3) トラウマとジェンダーの相互作用を、当事者の自助グループやメディア発信・アート表象など文化創造的な側面から明らかにする。トラウマとジェンダーの相互作用が、自己回復や創造性に向かう流れを分析する。

３．研究の方法

研究代表者と研究分担者、連携研究者をコアメンバーとし、メディア系、臨床系、犯罪・矯正系の研究協力者、当事者研究関係者、ジェンダーやトラウマの分野の大学院生、海外研究協力者を迎え、共同研究を行った。臨床事例研究、文献研究、関連諸機関の視察やフィールドワーク、当事者による表現活動の実践的研究、共同研究会議、公開ワークショップを行った。

また、各年度年間テーマを以下の通り定め、研究を実施した。

<平成 25 年度>「アタッチメントと解離：トラウマ反応と子育て困難」

<平成 26 年度>「性被害とジェンダー化される身体：セクシュアリティとアタッチメント・解離・逸脱」

<平成 27 年度>「依存症とジェンダー：トラウマの「自己治療」から自助グループへ」

<平成 28 年度>「グローバル社会のトラウマとジェンダー：精神病理・逸脱・創造性」（平成 28 年度は東日本大震災から 5 年という節目として、震災のトラウマとジェンダーについても検討を行った）。

４．研究成果

(1) 精神病理・臨床的側面から分析したトラウマとジェンダーの相互作用について、下記のような成果が得られた。

① 宮地は、海外研究協力者との共同研究において、解離の知見を取り入れた精神病症状へのアプローチ、不安定-無秩序型アタッチメントと遺伝的および環境的要因の関係、精神分析と語られないトラウマ、精神医療における脱施設化／脱制度化、治療者側の傷つきや成長、発達障害等について、トラウマとジェンダーの視点から分析を進めた。

② 性被害等のトラウマと解離の関係については、平成 26 年度に共同研究会議「トラウマ・解離・脳」を開催し、国内の臨床家や関連諸分野の専門家を研究協力者として招聘し理論的討議を実施した。脳科学やジェン

ダー学の側面から臨床実践的課題の検討を行い、分析を進めた。
平成 28 年度共同研究会議では、トラウマの最新の臨床実践について議論した。オートノミートレーニングを用いた慢性疾患へのアプローチや、ブレインジムなどの身体技法による解離症状へのアプローチについて、事例を交えて検討した。
③　トラウマ臨床や小児医療、発達心理の領域の研究協力者の参加を得て、臨床の長期経過を考察した。発達早期のトラウマを分析することで、ジェンダーやセクシュアリティの構築を発達論的な視点から見直し、また、トラウマの世代間伝達についても、親密圏におけるジェンダーの権力関係からみた分析を行うことができた。

(2) 犯罪行為や逸脱現象の側面から分析したトラウマとジェンダーの相互作用について、下記のような成果が得られた。
①　宮地は、平成 25 年度及び 26 年度に、警察庁の「ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討会」に委員として参加し、討議及び検討を行った。また、日本弁護士連合会主催のシンポジウムで、刑事裁判における性被害の取り扱いについてトラウマとジェンダーの見地から講演を行い、論集に寄稿した。ストーカー行為に対する規制の構築過程や刑事裁判における性被害の取り扱いなど、社会・法制度の側についても分析を行い、ジェンダーとセクシュアリティに関する社会的規範とその影響の検討と、それらに対する当事者や支援者からの視点の重要性を考察した。
②　宮地は、依存症がトラウマ反応への「自己治療」的作用をもつことと、それが暴力の連鎖につながり得ることについて分析を進め、自助グループの活動や当事者研究等について、依存症によらない回復の可能性という観点から考察し、論考にまとめた。
後藤は、薬物依存者回復施設ダルク企画の「ダルク 30 周年記念フォーラム」で講演を行い、同施設のほか国内外の女性刑務所の調査、当事者への聞き取り等を継続的に行い、女性の犯罪行為・「逸脱」現象を詳細に考察した。女性犯罪者が刑事司法の中で自分の声を取り戻し、社会復帰を目指すための法的支援のあり方について、平成 28 年度に論文にまとめた。ＮＰＯ法人子ども権利センター帆希を運営すると共に、関係機関との連携等についても検討を行った。そのほか、警察大学校や、暴力被害支援や児童支援のセンター等で、ジェンダー・センシティブな支援や制度の在り方について、講演を多数行った。
③　青山は、性労働従事者への暴力とスティグマの関係について分析を進めた。また、女性に対する暴力に関する専門調査会において、若年層を対象とした性暴力の現状と課題について、社会学研究者の立場から検討及び提言を行った。

(3) 文化創造的側面から分析したトラウマとジェンダーの相互作用について、下記のような成果が得られた。
①　宮地は、ニュージーランドで、性暴力被害をうけたサバイバー男性によるＮＰＯ、Male Survivors Abuse Trust のフィールドワークを行い、語りやアート制作といったトラウマの多様な表象等をテーマに、ピア・カウンセリングへの参与観察、当事者及び支援者へのインタビューを実施し、トラウマからの創造性について考察を行った。
②　地域における参加型アートプロジェクトに取り組むＮＰＯ法人アートフル・アクションと連携し、「問いかけながら道をゆく」展、「多文化アートプラットフォーム 2015『考える・行動する・繋がる共創空間』」等を共催した。コミュニケーションの場の創成や情報発信について考察を行ったほか、「トラウマを耕す」というコンセプトから、トラウマの語りにくさと芸術表現の可能性等について、一般聴衆向けのトークイベントや対談を行い、記録集作成に参加した。
③　「こころと身体の対話―ヨガとアーユルヴェーダから回復を考える」「TRAUMA と CREATIVITY 表現から見えるその先の未来」など、ワークショップを多数実施した。トラウマや依存症からの回復について、こころと身体の相互関係からのアプローチ、アート表現やパフォーマンスからのアプローチを検討するとともに、ジェンダーやトラウマの理論と、医療や福祉・教育など実践的な場面との関連を検討した。

(4) 上記(1)～(3) を統合し、下記のような成果が得られた。
本研究を通し、精神医学や脳科学等の研究者や、法学、ジェンダー及びセクシュアリティ論、メディア研究等の研究者、臨床家、支援団体、アーティスト、矯正機関や当事者運動からの研究協力者が加わることで、有機的な研究ネットワークが形成された。そのことにより、本研究は(1)～(3)を柱としつつ、それぞれが相互に関連し合い、より学際的かつ社会や文化に開かれたジェンダー研究を実施することが可能となった。
とくに、生物学的なトラウマ研究や臨床医学・性差研究の最新の知見が活用されると共に、その社会科学的な批判検討を行った。
また、犯罪や逸脱、当事者の自助グループやアート表象等に目を向けることで、トラウマの過度な病理化や医療化を防ぎ、トラウマのもつジェンダーかく乱の可能性や文化創造性に言説を開いた。
東日本大震災に関しては、まず平成 27 年度に、被災地の精神保健医療対策、まちづくりと震災トラウマ及び復興ストレスの現状と課題について、宮城県でフィールドワークを行った。平成 28 年度は、東日本大震災後の５年を節目としてふりかえり、阪神淡路大震災と比較しながら「復興」過程でトラウマ

がどのように複雑化、潜在化しているかをジェンダーの視点から問い直した。精神保健の視点から分析するのみならず、トラウマの影響が犯罪や暴力や逸脱として現れる側面や、それに抗するための被災当事者及び支援者による文化創造的な活動にも着目した。

これらの成果を受け、まず、講演等における成果発信においては、犯罪加害と被害との関連、更生や回復のあり方、メディアの役割など、今日的課題にもジェンダー・センシティブな提言が可能となった。

国際的には、トラウマを生物学的・心理的・社会的に捉え、ジェンダーの視点を包括的に取り入れた入門書『トラウマ』（平成 24 年度）の韓国版を平成 27 年に出版した。また、社会のジェンダー規範のなかの母親の役割を再考し、育児をより創造的に捉え直す『ははがうまれる』を日本で平成 28 年に出版、今後ヴェトナムでも出版予定である。また、トラウマの語りにくさや、トラウマティックな出来事と社会の関係等を理解するための「環状島」モデルに関して、国際誌での論文発表、海外での学会報告及びメディアでの発信、英語のホームページ作成等を行った。

海外での学会報告や共同研究は、自然災害、紛争、テロ、性暴力といった国内外のさまざまな地域で共有され得る問題について、トラウマへの理解や、伝統医学や土着の癒しの文化的装置や治療共同体等を比較しつつ議論する機会となった。その成果は、日本での講演や論文発表等にも還元された。

ほかにも、千葉性暴力被害者支援ワンストップセンター、ＮＰＯ法人子ども権利センター帆希の運営への参画、「ストーカー行為等の規制等の在り方に関する有識者検討会」等、政府や自治体の関連審議会の委員を務め、性暴力被害の支援者や法曹・警察関係者向けの多数の研修会で講演を行う社会活動によって、成果を社会に還元することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 46 件）

① 宮地　尚子、菊池　美名子、領域を越えて、トラウマを耕す、こころと文化、査読無、16 巻 1 号、2017、pp.30-35
② 宮地　尚子、松村　美穂、ドメスティック・バイオレンス（DV）とはなにか、保健の科学、査読無、59 巻 1 号、2017、pp.49-53
③ 青山　薫、研究者による問題提起　社会学の立場から、男女共同参画会議 女性に対する暴力に関する専門調査会 資料 1-2 若年層を対象とした性的な暴力の現状と課題～いわゆる「JK ビジネス」及びアダルトビデオ出演強要の問題について、査読無、2017、pp.45-49
④ 後藤　弘子，Sexual Assault in Japan: ‘Every Girl was a Victim,’ 新聞コメント，Al Jazeera，査読無，2017/3/10 号，2017，https://www.aljazeera.com/indepth/features/2017/03/sexual-assault-japan-girl-victim-170307101413024.html
⑤ 宮地　尚子、菊池　美名子、松村　美穂、人という毒、人という薬、臨床心理学、査読無、16 巻 5 号、2016、pp.535-539
⑥ 宮地　尚子、虐待サバイバーとレジリエンス、子どもの虐待とネグレクト、査読無、17 巻 3 号、2016、pp.346-352
⑦ 後藤　弘子，Commuters Fight Back against Groping: Victims are Speaking Up in a Bid to Help Others Understand They’re Not Alone，新聞コメント，The Japan Times，査読無，2016/7/30 号，2016，pp.13-15
⑧ 後藤　弘子、 犯罪とジェンダー－女性犯罪者の立ち直りの困難、こころの科学、査読無、187 号、2016、pp.2-8
⑨ 青山　薫、書評　嶽本新菜『「からゆきさん」：海外＜出稼ぎ＞女性の近代』、ピープルズ・プラン、査読無、71 号、2016、pp.159-162
⑩ 宮地　尚子、治療関係における「安全さ」を求めて－トラウマ臨床における配慮、精神看護、査読無、18 巻 6 号、2015、pp.557-561
⑪ 宮地　尚子、食べることの調律もしくは食べることの失調－複雑性トラウマと摂食障害、そだちの科学、査読無、25 号、2015、pp.77-82
⑫ 宮地　尚子、医療のなかのトラウマ－環状島モデルを用いて、患者安全推進ジャーナル、査読無、41 号、2015、pp.65-73
⑬ 宮地　尚子、心の傷と共に生きるということ－PTSD とトラウマ、矯正医学、査読無、63 巻 2-4 合併号、2015、pp.4-21
⑭ 青山　薫、「「『バイセクシュアル』である」と、いうこと」再考－「バイセクシュアル・アイデンティティ」の不可能性と可能性、現代思想、査読無、10 月号、2015、pp.126-135
⑮ 後藤　弘子、女性の性のコントロール装置としての刑法、ふぇみん、査読無、3081 号、2015、p.2
⑯ 宮地　尚子，A New Metaphor for Speaking of Trauma: The Troidal Island Model，Violence and Victims，査読有，29(1)，2014，pp.137-151
⑰ 後藤　弘子、ストーカー行為に対する警察の対応とその問題点、犯罪と非行、査読無、178 号、2014、pp.18-39
⑱ 宮地　尚子、菊池　美名子、ドメスティックバイオレンス（DV）はなぜ起こるのか－人文社会科学的側面からの考察、保健の科学、査読無、56 巻 1 号、2013、pp.4-9
⑲ 菊池　美名子、宮地　尚子、想像の繭、飛べない羽、ユリイカ、査読無、45 巻 11 号、2013、pp.181-184

〔学会発表〕（計 96 件）

1 青山　　薫，Same-sex Marriage/

Partnership within Post-modern Japanese Family, Institute for Population and Social Research Wednesday Seminar, 招待講演, 29th March 2017, Institute for Population and Social Research, Mahidol University, Salaya(Thailand)

2 後藤　弘子, The Reality and Issues Regarding the Child Pornography Regulations in Japan, 認定非営利活動法人ヒューマンライツ・ナウ主催・国際連合第61回女性の地位委員会サイドイベント“Exploitation of Women in the Entertainment Industry,”招待講演, 16th March 2017, Salvation Army Auditorium, New York(U.S.A.)

3 後藤　弘子、夫・恋人からの暴力（DV/ストーカー）～その問題と法的対応～、警察大学校生活安全警部任用課程での講演会、招待講演、2017年2月10日、警察大学校（東京都府中市）

4 青山　薫, The Fine Lines: Migration, Trafficking, Care and Sex Work, The Sussex Centre for Migration Research Migration Series Seminar, 招待講演, 28th September 2016, Sussex Centre for Migration Research Migration, University of Sussex, East Sussex(U.K.)

5 青山　薫、現場と先例に学ぶ性産業における暴力防止、男女共同参画会議 女性に対する暴力に関する専門調査会 第83回、招待講演、2016年9月12日、中央合同庁舎8号館（東京都千代田区）

6 青山　薫, Migration and the New Mode of Reproduction, The 4th Mahidol Migration Center Regional Conference “In the Era of Transnational Migration,”招待講演, 29th June 2016, Institute for Population and Social Research, Mahidol University, Salaya(Thailand)

7 青山　薫, The Impossibility of Policing Trafficking: Prioritising the Lived Experiences of Migrants in the Sex Industry, The Toyota Foundation & National Research Foundation of Korea Colloquium on ‘Integration of Migrants and Social Policy Issues,’招待講演, 30th April 2016, Hanyang University, Seoul(Korea)

8 青山　薫、トラウマ×ジェンダー×創造性: トラウマとクリエイティビティー表現から見えるその先の未来、神戸大学国際文化学研究推進センタープロジェクト「日本における社会的排除の分野横断的研究」より、2016年3月5日～6日、雲州堂（大阪府大阪市）

9 宮地　尚子、DV、性暴力とトラウマ、NPO法人 女性の安全と健康のための支援教育センター「女性・子どもへの暴力と取り組み行動する支援者のための研修講座」、招待講演、2016年2月28日、東京有明医療大学（東京都江東区）

10 青山　薫, Migrant Measures in Japan: vis-à-vis Anti Trafficking Protocols on the Sex Industry, Integration of Migrants and Social Policy Issues Reflections from Japan, Korea and Thailand towards Creation of Inclusive Society, 24th January 2016, 海外移住と文化の交流センター（神戸市中央区）

11 宮地　尚子, Secrets and Lies around Trauma, Regional Launch of the World Suicide Report and Suicide Prevention Meeting in Japan, 招待講演, 1st December 2015, 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール（東京都小平市）

12 後藤　弘子, Will Prime Minister Abe’s ‘Womanomics’ Break Glass Ceiling in Japan?, Japanese Law Symposium: Glass Ceiling for Female Professionals, Executives and Managerial Employees in Japan, 18th September 2015, University of California Hastings College of the Law, San Francisco(U.S.A.)

13 宮地　尚子、災害における女性相談とメンタルヘルス、全国女性会館協議会、招待講演、2015年9月11日、独立行政法人国立女性教育会館（埼玉県比企郡）

14 後藤　弘子, Feminist Legal Theory and Sexual Crime in Japan, the 4th East Asian Legal Studies Conference, 6th August 2015, 早稲田大学（東京都新宿区）

15 後藤　弘子, Japanese Juvenile Court and Therapeutic Jurisprudence, the 34th International Congress on Law and Mental Health, International Academy of Law and Mental Health, 15th July 2015, Sigmund Freud University, Vienna (Austria)

16 青山　薫, Life Stories: Truth and Transformations(Panel), Global LGBT Forum, ‘Strengthening Communities: LGBT Rights & Social Cohesion,' Global Salzburg Seminar, 招待講演, 15th June 2015, Salzburg Global Seminar, Leopoldskronstrasse(Austria)

17 後藤　弘子, Feminist Legal Theory in Japan, Feminist Legal Theory in the United States and Asia: A Dialogue, 16th May 2015,復旦大学法科大学院, 上海(中国)

18 宮地　尚子, Psychiatric Treatment of Traumatized Women in Japan, The 6th World Congress on Women’s Mental Health, The International Association for Women’s Mental Health, 23th March 2015, 京王プラザホテル（東京都新宿区）

19 宮地　尚子, Why is Sexual Violence So Traumatic?, The 5th World Congress of

Asian Psychiatry, Asian Federation of Psychiatric Associations, 5th March 2015,九州大学医学部（福岡県福岡市）

20 宮地　尚子, Gender Based Violence and Complex Post-traumatic Stress, The 5th World Congress of Asian Psychiatry, Asian Federation of Psychiatric Associations, 5th March 2015, 九州大学医学部（福岡県福岡市）

21 後藤　弘子, Japanese Legal Policy against Drug, The 16th International Society of Addiction Medicine Annual Meeting, 5th October 2014, 横浜国際会議場（神奈川県横浜市）

22 後藤　弘子, The New Role of Police to Prevent Further Victimization by Stalkers, The 14th Annual Conference of European Society of Criminology, 12th September 2014, Univerzita Karlova v Praze, Prague(Czech Republic)

23 宮地　尚子、精神医学的に見た性暴力被害の実態、日本弁護士連合会「司法におけるジェンダー・バイアス～性暴力被害の実態と刑事裁判の在り方～」、招待講演、2014年6月21日、弁護士会館（東京都千代田区）

24 宮地　尚子, A New Metaphor for Speaking of Trauma: The Troidal Island Model, Conference of the European Society for Trauma and Dissociation : Trauma, Dissociation and Attachment in the 21st Century: Where are we Heading?, 29th March 2014, Tivoli Congress Center, Copenhagen(Denmark)

25 宮地　尚子, Encounter with Medical Anthropology, Margaret Lock Conference: New Directions in Social Studies of Medicine, Science, and Ethics, 招待講演, 13th March 2014, Jones Hall, Princeton University (U.S.A.)

〔図書〕（計14件）

① 宮地　尚子、福音館書店、ははがうまれる、2016、176

② 日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会編、角田　由紀子、吉田　容子、宮地尚子、田中　嘉寿子、神山　千之、斉藤　豊治、南野　佳代、宮村　啓太、信山社、性暴力被害の実態と刑事裁判、2015、212（pp.41-69）

③ 宮地　尚子、ソンアンダン、トラウマ(韓国語版)、2015、288

④ 原田　正純、宮本　憲一、北澤　宏一、今中　哲二、北原　糸子、石牟礼　道子、吉岡　斉、船橋　晴俊、川島　秀一、色川　大吉、大島　堅一、入江　昭、除本　理史、山下　祐介、長谷川　公一、グレゴリー・ヤツコ、ウルリッヒ・ベック、加藤　尚武、大澤　真幸、宮地　尚子、潮出版社、災害と文明、2015、223（pp.181-186）

⑤ 斉藤　豊治、雪田　樹理、後藤　弘子、福原　哲晃、平山　真理、川本　哲郎、高山佳奈子、島岡　まな、崔　鐘植、井上　摩耶子、宮地　光子、島尾　恵理、太平　信恵、野澤　佳弘、高坂　明奈、養父　知美、瀬　泉、信山社、性暴力と刑事司法、2014、288（pp.101-118）

〔その他〕

① 社会に存在しないように生きる――「トラウマ」を抱えた人々の“沈黙の叫び”
http://diamond.jp/articles/-/44067

② RING-SHAPED ISLAND （英語）
https://ringshapedisland.wixsite.com/ringshapedisland

６．研究組織

(1)研究代表者

宮地　尚子（MIYAJI, Naoko）
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：６０２６１０５４

(2)研究分担者

後藤　弘子（GOTO, Hiroko）
千葉大学・大学院専門法務研究科・教授
研究者番号：７０２３４９９５

青山　薫（AOYAMA, Kaoru）
神戸大学・国際文化学研究科・教授
研究者番号：７０５３６５８１
（平成26年度まで連携研究者、平成27年度より研究分担者）

(3)研究協力者

ケン・クリアウォーター（CLEARWATER, Ken）
イシャ・ガルヴァス（GARBASZ,Yishay）
紀平　省悟（KIHIRA, Shogo）
菊池　美名子(KIKUCHI, Minako)
栗林　美知子(KURIBAYASHI, Michiko)
松村　美穂（MATSUMURA, Miho）
嶺　輝子（MINE, Teruko）
宮下　美穂（MIYASHITA, Miho）
中島　啓之（NAKAJIMA, Hiroyuki）
仁科　由紀（NISHINA, Yuki）
坂上　香（SAKAGAMI, Kaori）
田辺　肇（TANABE, Hajime）
田中　麻子(TANAKA, Asako)
ヴァーナー・チャン（TSCHAN, Werner）
リル・ウィルス（WILLS, Lil）
吉岡　礼美（YOSHIOKA, Remi）